



エスディージェイズ Coop × SDGs 世界をハッピーにするために

SDGsは
世界をハッピーに
するための道しるべ

Coopは、事業・活動
を通してSDGsの
達成をめざします

今、世界には貧困・格差、紛争、地球温暖化、食品ロスなど、解決しなければならぬ課題がたくさんあります。課題は国を超えてつながっているため、世界で力を合わせて解決しなければなりません。課題を残したままにすると、地球の未来はいずれなくなってしまうのです。

そこで2015年、国連の会議で世界共通の目標として定めたのが「SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)」です。SDGsは世界が直面しているさまざまな課題を解決し、私たちの世界をハッピーにするための道しるべ。「誰一人取り残さない」を合言葉に、2030年までの目標達成をめざしています。

Coopは、理念「CO・OP ともに はぐくむ 暮らしと未来」にもはぐくむくらしと未来」にありたい姿「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ。」を掲げ、消費者のくらしの中にあるさまざまな願いを互いに助け合いながら、持続可能な社会の実現をめざしてきました。

そして、この理念・ビジョンと、SDGsの基本的な考え方・めざす方向性は同じです。ビジョンの「食卓を笑顔に」は目標12「つくる責任 つかう責任」と、また「地域を豊かに」は目標11「住み続けられるまちづくりを」と結びつけて考え、Coopの取り組みとSDGsの17の目標がつながっていることをわかりやすく伝え、広がっていきます。



「SDGs」という言葉を聞いたことはありませんか？
これは、世界で直面する課題を解決するために、
17の「目標」を定めたものです。
Coopの取り組みも、SDGsと深く関わっています。

ビジョン2025 食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ。

SDGsの17の目標とCoopの理念・ビジョンの基本的な考え方・めざす方向性は同じです

食卓を笑顔に

コープは、商品の開発と提供を通じて、つくる人・つかう人の双方の立場から責任ある事業と活動を進めています。

12 つくる責任
つかう責任



● 科学の目で「つくる責任」を検証



2018年にリニューアルした「コープデリ商品検査センター」。さまざまな検査を実施することで食の安全に貢献することはもちろん、組合員が検査室を見学することもでき、食の安全を見て・聴いて・体験することができます。

● 環境や人々に配慮した商品の取り扱い



森林や海など自然環境に配慮してつくられた商品や、プラスチックの削減、社会貢献につながる商品の開発・普及に取り組んでいます。これらの商品には、お買い物のときに選びやすいようマークが付けられています。



地域を豊かに

コープは、地域に暮らす人と人とのつながりをつくり、さまざまな立場の人たちが互いに支え合い、誰もが安心して暮らせる豊かな地域づくりをめざしています。

11 住み続けられるまちづくりを



● 子育て応援



コープは生産者や取引先、行政などとともに、産地交流など子どもたちが食のつながりを感じられる活動を行っています。これらの子育て応援の取り組みが評価され、第12回キッズデザイン賞で優秀賞・消費者担当大臣賞を受賞しました。



● フードドライブ活動



家庭で眠っている食品を組合員が持ち寄り、地域のフードバンクへ提供するフードドライブ活動に取り組んでいます。また、さまざまな理由で組合員にお届けできなかった商品の一部をフードバンクに寄贈しています。提供・寄贈した商品は、フードバンクから生活困窮者、乳児院、児童養護施設、子ども食堂などに提供されています。

パートナーシップで目標の達成を

コープは、組合員や生産者、行政や諸団体など、食と地域に関わるさまざまな人とつながり、課題の解決に向けて取り組んでいます。

17 パートナーシップで目標を達成しよう



● 産地とのつながり



産直は、生産者・コープ・組合員がつながり、安全性が確保され、おいしさや環境配慮を兼ね備えた、生い立ちがはっきりわかる農畜水産物をお届けする取り組みです。お互いの顔が見える関係・交流づくりを進めています。

● 自治体との連携



コープは県や市区町村と「地域見守り活動」に関する協定の締結を進めています。宅配の配達時や店舗来店の際に、高齢者など地域住民の異変を発見した場合、自治体などの窓口と連絡。地域の方々とのつながりを生かした見守りネットワークに参加しています。

コープのSDGs
について
もっと詳しく



親子で学べる
コンテンツも公開中!